

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 13 日現在

機関番号：13601

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2014～2015

課題番号：26560413

研究課題名(和文)途上国でのChild to Childによる子どものエンパワメントの可能性と課題

研究課題名(英文)Potential and Challenges for child empowerment through Child to Child activities in developing countries

研究代表者

渡辺 隆一(WATANABE, Ryuichi)

信州大学・教育学部・特任教授

研究者番号：10115389

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、ケニア及びバングラデシュのChild to Child(CTC)アプローチを用いた健康・環境増進活動を対象として、CTCによる活動の実態と特徴、活動の成功・阻害要因、活動による子どもや教師のエンパワメントの可能性を明らかにした。その結果、CTCの活動は、2つの国において、学校の環境衛生の改善等に寄与し、さらに、子どもの創造力や社会性、リーダーシップ等を養う活動として認識されていることが分かった。課題としては、具体的な活動方針を提示するガイドラインの策定、活動時間の確保、担当教員以外の教員や地域住民の巻き込み、活動資金の確保、水やトイレ等の施設の充足といった点が確認された。

研究成果の概要(英文)： This research aimed to clarify characteristics and present situation of the health and environmental activities in schools based on Child to Child (CTC) approach, as well as factors which promote or hinder CTC activities and potential of CTC activities for empowering children and teachers, in Kenya and Bangladesh. As a result of the study, teachers and governors in both countries recognized that the CTC activities have contributed to improving hygienic and environmental situation in schools and to developing children's abilities such as creativity, social skills and leadership. As challenges of the CTC activities, both countries need to develop guidelines which help to promote CTC activities. In addition, it is necessary for CTC activities in both countries to ensure enough time for activities, to get cooperation from more teachers and community members, to get funds for activities, and to build related facilities such as toilet and water facilities in schools.

研究分野：環境教育

キーワード：エンパワメント 学校保健 開発途上国 ケニア バングラデシュ 子どもの参加

1. 研究開始当初の背景

近年、開発途上諸国では、子どもから子どもへと健康に関する知識や技術を普及させる教育手法である Child to Child (CTC) アプローチを用いた健康増進・環境改善活動が進められている。一般に開発途上国では、医療従事者や教師が不足しており、年上の兄弟が年少の子どもの世話をしている現状がある。そのため、CTC アプローチにより、年上の子ども達に基本的な疾病予防や環境衛生に関わる知識や技術を教育することで、幼い子ども達の健康状態の改善が期待されている。

こうした背景の中、1978年のCTCの提唱以降、CTCアプローチを用いた健康・環境教育が、70以上の国々で実践されている。特に、ニジェール、ケニアなどのアフリカ諸国では、CTCアプローチによる健康・環境教育が、国家レベルのモデルプロジェクトとして取り組まれている。CTCについてのこれまでの研究では、CTCによるマラリアやHIV/AIDSの予防教育、栄養教育についての研究が行われており、子ども達だけでなく、その親や地域住民の予防知識の獲得や、予防活動の普及に効果があることが明らかにされている。しかしながら、CTCアプローチの国ごとの特徴や、活動を成功に導く要因、あるいは、阻害する要因といったCTC活動がより効果的に進められるための諸条件については、十分に明らかにされてきていない。また、子どもがメッセンジャーの役割を果たすことは明らかにされているものの、子どもや教師にもたらされる教育的意義は、十分に検討されてきていない。そこで、本研究では、今後の開発途上国における子ども主体の健康増進活動を活性化させるため、CTC活動の可能性と課題、教育的意義について検討することとした。

2. 研究の目的

本研究では、CTCアプローチを用いた健康増進・環境改善活動の実態と特徴(成功事

例の収集と課題の集約)、成功要因および阻害要因、CTC活動による子どもや教師のエンパワメントの可能性を明らかにすることで、CTC活動の可能性と課題を明らかにすることを目的とした。さらに、上記の検討によって、CTC活動の可能性と課題を明らかにする。また、HP等での発信、研究会の開催による研究成果の共有により、CTC研究のネットワークを構築することを目的とする。

3. 研究の方法

平成26年度は、ケニアおよびバングラデシュを対象として調査を行い、文献検討、文献収集、各国の政府関係職員およびパイロット活動を行っている学校での聞き取り調査を行い、CTC活動の各国での実態と特徴(対象、活動内容、評価方法、成功事例と共通課題、CTC活動がより効果的に進められるための諸条件(活動の成功要因および阻害要因)、CTC活動を通して得られる子どもや教師へのインパクト(教育的意義))を検討した。平成27年度は、CTC活動の中で、子ども保健クラブを取りあげ、その推進状況を評価するツールを開発した。さらに、ケニア南東部のニャンザ地区の農村部において、子ども保健クラブの活動(以下、保健クラブ)を行っている学校(45校)の担当教員に質問紙調査を行い、保健クラブの活動状況、活動上の課題、活動を通して得られる子どもへのインパクトを明らかにした。

4. 研究成果

平成26年度に行ったケニアおよびバングラデシュでの聞き取り調査の結果では、ケニアにおいては、複数の支援団体が、CTCアプローチを用いた健康増進・環境改善活動を行っていることが明らかになった。しかしながら、各団体がそれぞれの方法で、特定の地域を対象として活動を行っていた。また、ケニアの政府職員に対する聞き取り調査では、

CTC 活動の有効性を認識しているものの、国家の学校保健戦略の中では、その具体的な方針は明示されていないことが分かった。一方、バングラデシュでは、国家の取り組みとして、教育省および保健省の協力の下で CTC アプローチを用いたプロジェクトが進行していることが分かった。ケニアおよびバングラデシュにおける学校での調査結果に共通した点として、子どもの創造力や社会性、リーダーシップなどを養う活動として、CTC 活動の重要性が認識されていることが明らかとなった。また、今後の課題として、具体的な活動の方針を提示するガイドライン等の策定が求められていることが明らかになった。

平成 27 年度にケニアの農村部において行った調査の結果では、保健クラブの活動の目的については、44.4%の学校において学校の衛生状況の改善を目的とし、31.1%の学校が子ども達の衛生と健康に関する意識の向上を目的としていることが分かった。一方、子どもたちの社会性の向上を目的としている学校は極めて少なかった。実施されている具体的な活動としては、「教室の清掃」や「トイレの清掃」が、全ての学校で実施されており、それ以外の活動では、実施割合が多い順に、「水の消毒」が 97.8%、「校庭の清掃」が 93.3%、「ごみ処理」が 84.4%、「歯磨き」が 82.2%、そして、「水汲み」が 80.0%の学校で実施されていた（表 1）。

表 1 保健クラブの活動

	実施している 学校の割合（％）
教室の清掃	100.0
トイレの清掃	100.0
水の消毒	97.8
校庭の清掃	93.3
ごみ処理	84.4
歯磨き	82.2
水汲み	80.0

一方、靴の着用の確認や爪の衛生、学校菜園等の活動は、実施している学校が少なかった。

また、保健クラブが地域で行っている活動に関しては、「何もしていない」が 28.6%、「地域でのごみの収集」が 28.6%と最も多く、実施割合が多い順に、「地域での清掃」が 19.0%、「健康教育」が 4.8%、地域でのトイレの使用に関する啓発活動が 4.8%であった（表 2）。

表 2 保健クラブの活動（地域）

	活動をしている 学校の割合（％）
何もしていない	28.6
地域でのごみの収集 （町、ビーチ、市場）	28.6
地域での清掃 （町、市場、ビーチ、教会）	19.0
健康教育	4.8
地域でのトイレの使用に関する 啓発活動	4.8
他の学校の清掃	2.4
寄生虫の駆虫	2.4
フェンスの設置	2.4
地域での児童労働や虐待に関する 啓発活動	2.4
地域での駆虫に関する啓発活動	2.4
飲料水（水の消毒）に関する実演	2.4
手洗いに関する指導	2.4
麻薬の使用防止に関する指導	2.4
学校での水の使用に関する指導	2.4

なお、CTC 活動を担当している教師は、保健クラブの活動を通して、子どもが創造力や社会性、リーダーシップ等を育てていると感じていることを報告した。また、教師と子どものコミュニケーションを増加させる活動としても、CTC の活動が評価されていることが分かった。保健クラブの活動上の課題としては、活動時間の確保、担当教員以外の教員

や地域住民の協力を得ること、活動資金の確保、水源やトイレなどの衛生施設の充足が求められていることが明らかになった。

以上の調査結果から、ケニアおよびバングラデシュでは、CTC アプローチを用いた健康増進・環境改善活動が行われているものの、ケニアでは、国家の取組としての明確な位置づけは与えられていなかった。また、バングラデシュでは、国家の取組としての CTC 活動が行われているものの、その活動の方針を明示するガイドライン等は作成されていなかった。これらのことから、まずは各国が、自国で行われている CTC 活動の成功事例と課題を集約し、それらの情報を基に、ガイドラインを作成するとともに、政策の中に積極的に位置づけて行くことが必要であると考えられた。また、ケニアおよびバングラデシュの双方において、CTC 活動が子どもの創造力や社会性、リーダーシップなどを養う活動であり、子どもをエンパワメントする活動であることが示唆された。CTC 活動の今後の課題としては、CTC 活動を行うための時間の確保、担当教員以外の教員や地域住民の協力、活動資金の確保、水源やトイレなどの衛生施設の充足が求められていることが明らかになった。

なお、2015 年度に行われたアジア学校保健国際研修において、CTC アプローチを用いた活動について、アジアの 10 数か国の国々の間で、その成果や課題を議論する機会を設け、CTC 研究及びその実践に関する情報共有を図った。

5 . 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者および連携研究者には下線)

[学会発表](計 2 件)

1. Sachi Tomokawa, Jun Kobayashi, Report from WHO technical meeting in 2015, Joint

International Tropical Medicine Meeting 2015, 2015.12.4, バンコク (タイ)

2. 友川幸、朝倉隆司、アジアの開発途上国における参加型学校保健活動 (子ども保健クラブ) の現状と課題、第 50 回長野体育学会、2015.1.24、信州大学 (長野県)

6 . 研究組織

(1)研究代表者

渡辺 隆一 (WATANABE, Ryuichi)
信州大学・教育学部・特任教授
研究者番号: 10115389

(2)研究分担者

友川 幸 (TOMOKAWA, Sachi)
信州大学・学術研究院 (教育学系)・准教授
研究者番号: 30551733

朝倉 隆司 (ASAKURA, Takashi)
東京学芸大学・教育学部・教授
研究者番号: 00183731